

健康と環境を守る

# 保健環境センターだより



## マイクロプラスチックを学ぶ

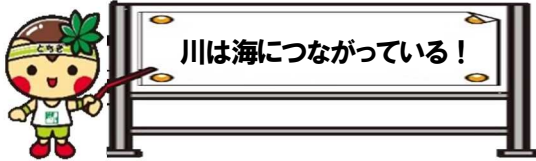
「海と日本プロジェクト」で子どもたちが栃木と海とのつながりを知り学ぶ

国土交通省、日本財団等が連携、推進する「海と日本プロジェクト」の一環として、子供たちが海について考え、海を身近に感じてもらい、海に関する様々な問題を自分事としてとらえることを目的としたイベントが、宇都宮市内で開催されました(主催:海と日本プロジェクト in 栃木県実行委員会、8月18~20日)。

その中で行われた、海ごみ等について体験学習する「マイクロプラスチックを知ろう」を、県資源循環推進課とともに担当しました(参加者:小学校5~6年生、17名)。



マイクロプラスチックを探す様子



← 参加者が見つけたマイクロプラスチックと思うもの

### マイクロプラスチックを知ろう

参加者は、海ごみについての講義を受けた後、ピンセットを使い、あらかじめ採取しておいた河川敷の土砂の中から、マイクロプラスチックを探し、観察しました。観察にはルーペ(虫眼鏡)や顕微鏡を使い、大きさや形、色などを記録し、どんなところから出て川に流れ込んだものなのかを考えました。

講義と実験を通して、「私たちの生活が川を通じて海とつながっていること」、「マイクロプラスチックが身近にあること」、「プラスチックごみを発生させないためにはどうすればいいのか」などについて、自分たちの問題として理解を深められたと思います。

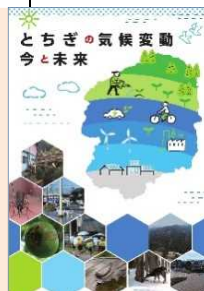
### マイクロプラスチックとは

マイクロプラスチックは、大きさが5mm以下の細かいプラスチック類のことです。元々小さいもののほか、風雨や紫外線(太陽光)により、大きなものが劣化してできたものがあります。世界中の海で確認されているマイクロプラスチックですが、その多くは、川や陸上から流入することが知られています。

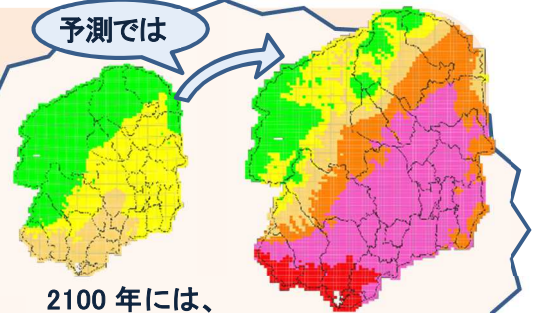
マイクロプラスチックを減らすためには、その元となるプラスチックごみをポイ捨てしない、飛散させないのはもちろんですが、プラスチックを使わない選択や、決められた方法で分別して捨てる、使用中の製品もきちんと管理することなども大切です。(化学部)



## とちぎの気候変動 今と未来



予測では



2100年には、真夏日(最高気温30℃以上)が3か月以上になる地点も!

詳しくは

とちぎの気候変動 今と未来

検索



# インフルエンザの流行に備えよう！！

## この冬 流行の可能性 があります

国内では、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった2020年2月以降、インフルエンザの患者報告数は少ない状況です。

しかし、北半球の多くの国では、2021年後半から2022年前半にかけて、インフルエンザが流行しました。また、流行時期が5月～9月頃にピークを迎える南半球のオーストラリアでは、現在、患者数の急激な増加が報告されています。

これまで、オーストラリアでの流行状況は、その後の日本での流行予測の参考になることが多く、今年の冬は日本でも流行する可能性があります。

これらのことなどから、日本感染症学会は、「季節性インフルエンザが今季に国内で流行する可能性が高い」という提言をまとめ、一般の方々に対してワクチン接種を推奨すること、感染予防を心がけることなどを呼びかけています。

## インフルエンザの予防法

インフルエンザの予防には、「手洗い」と「咳エチケット」が有効な方法です。

「手洗い」により「かからない」、もしかかってしまってもマスクを装着するなどして他の人に「うつさない」ことが、とても重要です。

また、ワクチンは、発症や重症化を防ぐ効果があるとされていますので、接種を検討しましょう。



## インフルエンザの検査 をしています

微生物部では、感染症発生動向調査により県内の定点として選定された医療機関から提供された検体について、インフルエンザの検査を実施しています。

検査法の1つにウイルス分離培養法があります。ウイルス分離とは、検体中に存在する生きたウイルスをつかまえて増やすことです。ウイルスは単独では増えることができないので、培養細胞に検体を接種して毎日顕微鏡で観察し、ウイルスが増えたかどうかを確認します。その後、ウイルスの同定、型別や抗原性の解析を行います。

この方法はウイルスの同定までに1週間から2週間を要しますが、ウイルスを増やして保管しておくことで、ワクチン株や過去に流行したウイルスとの抗原性の違いを解析することができるため、非常に重要な検査法です。

また、このように全国の地方衛生研究所で分離されたインフルエンザウイルスの一部は国立感染症研究所に集められ、薬剤感受性試験が行われているほか、インフルエンザウイルスの流行解析やワクチン株の選定に役立てられています。

(微生物部)



培養細胞に検体を接種している様子

発行 栃木県保健環境センター  
〒329-1196 宇都宮市下岡本町 2145-13  
TEL : 028-673-9070  
FAX : 028-673-9071  
E-mail : kenkou-kc@pref.tochigi.lg.jp  
<栃木県保健環境センターホームページ>  
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/e60/index.html>